



さつま土手に関するクイズに答える児童たち = 静岡市立井宮小学校（同市葵区井宮）

# 今も生きている！‘さつま土手’ 郷土の歴史、出前講座で学ぶ（井宮小児童）

- いのみや

 国土交通省静岡河川事務所は6月29日（水）、静岡市立井宮小学校の5年生児童約90名を対象として、安倍川の治水や防災について学ぶ出前講座を行った。講座は、安倍川治水の歴史副読本「徳川家康公と安倍川物語」を本年5月末に市内小学校へ合計300冊を寄贈したことをきっかけに、同小学校からの依頼を受け、今回の出前講座を行うこととなり、調査課の安本悠人さんらが講師を務めた。

冒頭、細野貴司調査課長は「井宮小の学区内には、治水に関する重要な建造物があり、また、水に関わる地名も多く残されている。この副読本を見ながら、郷土の歴史を楽しく学び、周りの人たちに広めて欲しい」と挨拶。次いで、安本さんがスライドを使い、今から400年前に徳川家康公が駿府城や駿府の町を安倍川の洪水から守るため、薩摩藩に命じて築造させたと云われる‘さつま土手’に関するクイズを出題し、児童たちは元気よく手を上げて答え、その特徴を熱心にノートに書き留めた。児童たちからは、堤防の土はどこから運んできたのか、今も一部が残され存置されているのはなぜかなど、普段疑問に思っている様々な質問や意見が相次いだ。その他、今から100年前に安倍川沿いを走り出し、その起点となる井宮駅舎があった安倍鉄道なども紹介され、斉藤千歳さん（10）は「安倍川の歴史やさつま土手が詳しく分かって良かった」と話した。



寄贈した安倍川治水の歴史副読本



# 出前講座の講師を終えて



【講師】 静岡河川事務所・調査課 安本悠人



① さつま土手の由来 国土交通省

「さつま土手」は、今から約400年前、徳川家康が「さつま藩」(現在の鹿児島)の島津氏に命令して造らせたため、「さつま土手」と呼ばれています。

② さつま土手の現在 国土交通省

60年前にほとんどが削りとられた「さつま土手」ですが、いまでも役割がのこっています。

③ さつま土手の現在 国土交通省

**問題. 今でも、さつま土手の一部が残されていますが、その理由は？**

A. 今でも大きな洪水から静岡市の中心部を守っている。

B. 山から下りてくる野生動物が市街地に入らないようにする役目がある。

④ まとめ 国土交通省

- ・「さつま土手」は徳川家康の命令で、「さつま藩」の人々が作った。(※ほかにも説がある)
- ・「さつま土手」は、駿府の町を洪水の被害から守るために作られた。
- ・「さつま土手」は、400年たった今も、静岡の町を守っている。

これまで私が携わった業務の中で90人という大人数を前にして話しをする機会は無く、また、小学生が対象ということで、どんな雰囲気ですればよいのか、講座が始まるまではとても不安でしたが、児童の皆さんが最後まで真剣に話しを聞いてくれたおかげで安心して話しをすることが出来ました。そして、何よりも驚いたことは、説明の中で「さつま土手が今なお残されている理由」をクイズ形式で出題したところ、多くの子供たちは「山から下りてくる野生動物が町に入らないようにする」という回答を選択したことです。これは、近年、山に餌となる食料が少なく、人里まで動物たちが出現するニュースをよく聞きますが、そういった時代背景があるのかも知れません。

最後に、子供たちに分かり易いような資料を作成するという事は、大人向けの資料よりも難しく、“伝える”から“伝わる”ことを意識した説明に徹したつもりです。今回の出前講座を通じて、児童たちが少しでも、郷土のことを考えるきっかけになれば幸いです。今回、このような貴重な経験とチャンスを与えて下さいました、井宮小学校の先生や職場の上司に感謝し、お礼の言葉に代えたいと思います。有り難うございました。





出前講座のおかげで、「さつま土手」のある井宮の地域をもっと大切にしたいという気持ちが、子どもたちに芽生えました。

- 井宮小学校の学区は、「さつま土手」が今も残っている唯一の地域です。しかし、井宮小の子たちは、「さつま土手」に対して関心が薄く、地域の方々のお散歩コースになっている土手…といった程度の認識で、歴史的な素晴らしい価値に気づいている子は、ほとんどいない状態でした。

井宮小の5年生は、総合的な学習で、毎年「環境」をテーマに学習をしています。井宮の子が、「さつま土手」を知らなくてどうする……。今年こそ、地域の特色である「さつま土手」について学ばせたい。そして、「さつま土手」をきっかけに地域全体の特色を知り、自分たちの郷土を大切にしていける気持ちを育てていきたい。そう思っていた矢先に、本校に国土交通省中部地方整備局静岡河川事務所で作られた安倍川治水の歴史副読本「徳川家康公と安倍川物語」が送られてきたのです。中を開くと「今も生きている！駿府のまちを守った『薩摩土手』」という願ってもないタイトル！即座に出前講座をお願いしようと、決めました。事前打ち合わせでは、調査課長の細野さんと安本さんのお二人が本校に出向いてくださり、本校の学習のねらいを踏まえ、「さつま土手」や井宮地区を中心とした出前講座にしていくための綿密な打ち合わせをしていただきました。

## 問題 「井宮」はどういう意味なのか？

### 【答え】

- 井宮町の「井」という字は、田の間に用水が流れる形からきたもので、水の神様(宮)を祀ってあった関係で「井宮」という名が生まれた。  
つまり、町内にある井宮神社(妙見さん)が町名の由来。



出前講座の講座資料より抜粋

## まとめ

- 井宮町は、水とたたかい、水とともに生きてきた地域であり、水に関わる地名が多い地域。
- 井宮町は、静岡市(駿府)を水害から守るために造られた「さつま土手」や、駿府城に引き込む御用水の取り入れ口(水門)が設けられるなど、水に関わる自然・歴史・文化が息づく地域。

本番当日は、大きなスクリーンいっぱい映し出されていく映像と共に説明が進み、子どもたちに視覚的にもわかりやすく講座が進んでいきました。また、聞きっぱなしで子どもたちを飽きさせないように、要所要所にクイズが織り込まれ、子どもたちの関心を喚起させるための工夫がされていました。どの子どもも目を輝かせ、細野さんや安本さんのお話を聞き漏らすまいと、夢中で画面を見つめて集中している姿を見て、本当にこの講座を企画していただいて良かったなあと、思いました。

また、提示された資料の中には、大変貴重な図や写真がいくつもありました。実は、学年でも「さつま土手」に詳しい方を探したり資料を募ったりしていたのですが、地元でも、なかなか思うように進んでいないのが現状でした。ここまでたくさんの貴重な資料を一堂に見られるのも国土交通省中部地方整備局静岡河川事務所の出前講座ならではの感じました。安倍鉄道が走っていたこと、その起点が井宮駅舎であったことなど、子どもたちだけでなく私自身も知らなかったことが幾つもあり、驚きと共に大変勉強になりました。

「さつま土手」の由来や、この地に作られた理由、「さつま土手」が今もなお井宮地区にだけ残されている理由、そして、「さつま土手」を中心にした安倍川の治水の歴史や人々の暮らしの変化など、子どもたちの疑問に丁寧に答えていただきながら、詳しくわかりやすく説明していただけたあつという間の一時間でした。「さつま土手」が、今もなお人々の暮らしの中で生きていること、「さつま土手」や安倍川の治水にまつわる井宮地区の歴史を知ることができ、子どもたちの認識を大きく変えるきっかけとなる講座になったと思います。「さつま土手」のあるこの井宮の地域をもっともっと自分たちで大切にしていこう、そのために自分たちにできることを考えていこうと、子どもたちは、改めて決心していました。